

活動団体： チャイルド・ファンド・ジャパン

すべての子どもに開かれた未来を

団体の活動



チャイルド・ファンド・ジャパンは、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。現在、フィリピン、ネパール、スリランカの3カ国で、地域開発支援としての「スポンサーシップ・プログラム」(手紙や成長の記録を通して子どもの成長を見守りながら、子どもたちの成長と地域を支える支援プログラム)を中心に支援活動を行っています。また、世界10カ国のアライアンスメンバーと連携し、世界各地で災害・紛争時の緊急・復興支援を行っているほか、子どもの権利を守るための広報・啓発・提言事業も実施しています。

<https://www.childfund.or.jp/>



学用品支援の様子



被災した子どもたちへの
心のケア

インターンプロフィール

高橋 瑞季

中学生時代、チャイルド・ファンド・ジャパンとの出会いや、他のNPOでのボランティア活動をきっかけに、国際協力、特に途上国の子どもの教育をめぐる課題に関心をもつ。大学院修士課程では教育学研究科に所属し、バングラデシュをフィールドに、少数民族の子どもたちを対象とした教育について研究を行う。また、在学中に一時休学してインド・在コルカタ日本国総領事館での派遣員業務を経験。修士課程修了後、2026年4月に当団体に入職。

所属団体で活動するきっかけ

通っていた中学校が、チャイルド・ファンド・ジャパンの「スポンサーシップ・プログラム」を通じてフィリピンの子どもたちを支援していました。チャイルド（「スポンサーシップ・プログラム」を通じて支援を受ける子ども）とクリスマスカードをやり取りする中で、漠然とした「遠くの国の貧しい子ども」ではなく、夢や目標に向かって努力する同年代の存在を身近に感じたことを今でも覚えています。その経験をきっかけに、様々なNPO等での活動を経て「国際協力を仕事にしたい」という思いが育まれたことが、当団体入職につながりました。

どのような業務(活動)をおこなっているか

現在は支援者サービス課に所属し、支援対象の子どもたちと、彼らに思いを寄せて支援してくださっている個人・団体の支援者をつなぐ働きをしています。問い合わせ対応や、手紙を通じた交流のサポートを通じて、子どもたちの成長や地域開発の成果をお伝えし、国際協力を身近に感じていただけることを目指しています。また、ご支援くださっている学校や団体を訪問し、活動報告会や国際協力に関するワークショップを実施することもあります。さらに手紙の翻訳や、子どもたちの成長の記録をはじめとする各種郵送物の発送等、多くのボランティアの皆さまにご協力いただいていますので、状況に応じてそうした方々との連絡・調整も担当しています。

スキルアップのためにしていること

支援者と、受益者との間の橋渡し役として信頼される存在となるために、支援地域の様子を自分なりの言葉で的確に伝えられるよう日々研鑽しています。また、支援者からの電話・メールへの対応や報告会、また子ども・若者向けのイベント等の企画運営を通じて、日々試行錯誤を重ね、コミュニケーション能力向上を目指すと共に、支援地域の状況を正しく伝えられるよう情報収集にも努めています。そのためにも、各国のスタッフと連絡を取りつつ、支援地域の理解を深められるよう心掛けています。

海外研修について ～どこで何を行う予定？

2026年7月末から8月上旬にかけて、フィリピンの当団体の事業地3カ所を訪問しました。各地域で活動する協力パートナー団体からのブリーフィングや、事業視察、支援対象の子どもたちやその保護者へのインタビューを通じて、各地域の開発課題への理解を深めると共に、

高橋 瑞季

当団体が行う支援活動の成果と課題を考察しました。

また、研修期間中に、支援校の生徒・教員による事業地訪問があったため、その対応・通訳等も行い、支援者の事業地訪問の意義と課題を知ることができました。

今後のビジョンは？

一人でも多くの方々、特に子ども・若者を対象に、国際協力や子どもの権利を自分事として関心をもって受け止めてもらえるよう、お話しする機会を設けていきたいと考えています。まずはそのために、8月に実施した海外研修で実際に目にした事業地の現状や、インタビューした子どもたちや保護者の生の声を報告会やワークショップを通じて共有し、子どもの権利を守るために行われている活動をより多くの方々に具体的に理解していただけることを目指します。また、2027年2月には、支援校の生徒・学生の方々を対象としたスタディツアーを計画しています。

国際協力分野で活動を目指す人へのメッセージ

フィリピンの子どもたちから届いたクリスマスカードを読んでいた時の中学生の私は、まさか大人になった自分が国際協力に携わる仕事に就くとは思っていませんでした。業務を通じて見えてくる支援地域の貧困や、子どもたちの教育を阻害する課題の大きさに圧倒されてしまうこともあります。学生時代に感じた「あの子たちが笑顔でいられるように何かしたい」という小さな思いを忘れずに活動していきたいと考えています。まだ経験の浅い身ではありますが、国際協力を志す皆さまと共に、より良い未来の実現に向けて、少しずつ歩んでいければ幸いです。

団体アピール

私たちの団体の由来は、第二次世界大戦直後、海外からの資金援助を受けて行われた日本の戦災孤児の支援にまで遡ります。その後日本が戦後復興を遂げた1975年、「海外の人々から日本の子どもたちが温かな支援を受けたように、今度は日本の私たちが海外で困難な状況に置かれている子どもたちを支援しよう」と、海外支援へと舵を切りました。多くの方々のご支援をいただきながら、2025年には50周年を迎えました。気候変動や相次ぐ自然災害、また子どもへのオンライン性虐待・搾取等、今日的な課題にも取り組みながら、これからも、すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成を目指して、活動を続けてまいります。